



季節の中で

我が町の桜並木は今年もみごとくに咲き誇りました。四月十四日、春の到来を喜ぶかの様に四百余名の人々が集った桜まつり。踊る輪は幾重にも広がる民謡踊り、それを見物する人々、もぎ店も出て、とても楽しく賑やかに行われました。この桜まつりの行事を最後に矢花サイ子

新井宿自治会連合会総会の開催

六月八日に新井宿特別出張所において新井宿自治会連合会が開催されました。総会後に開かれた懇親会では、退任会長及び自治会・町会役員永年在職者に対して西野大田区長から、退任副会長に対して岩井連合会長から、感謝状が贈呈されました。(敬称略)

〈退任会長〉 山内 大三
猪良 清治
朝比奈 瑛
〈退任副会長〉 矢花サイ子

原田あけみ 松原 軼也
市川 健一 中村 保正
中里 竹雄 宇田川弘子
(故)高柳 倉吉 辻 忠一郎
(役員永年在職者) 田畑 健一
来原 基 平林 敬子
島田よし子 西嶋 雄司
伴野 耕二 矢澤 直樹
田中 トシ 小野 啓造
飯室 秀次 原 すい
星 貞三 松原美枝子
廣瀬 義裕 前田 律子



会長は、町会長十年又連合会長四年に亘つての重任を果されて、引退されることになりました。誰にも公平で、人々への思いやりは深く、文化を愛されたお人柄は町内に広く親しまれていました。後任には渡部作次町会長を迎えました。いつもいつも町の為に親睦・活性化を支えて下さっている人々に心から感謝いたします。

＊新井宿自治会連合会会長交代
新井宿連合会長には、前任の矢花サイ子会長に代り、中央四丁目自治会の岩井久年町会長が選出されました。

ねずみ退治は町ぐるみ

最近、ねずみが家屋に侵入して食べ物や家具などをかじる被害が続出しています。そこで、「わがまち新井宿」編集委員会でねずみの駆除対策をまとめてみました。町ぐるみでねずみ退治にご協力をお願いいたします。

- ・食品類は、蓋つきの容器が戸棚に入れる
- ・ゴミは蓋つきのゴミ箱を使用
- ・ねずみが巣を作りそうな場所をために点検・掃除する
- ・新聞紙、ティッシュペーパー、スーパーストック、衣類なども巣の材料になります
- ・二・五cmのすき間があれば侵入します。穴を見つけたら、金属たわしや、金網、パテなどで穴をふさぐか、つめる事

＊ねずみの駆除対策については区役所の生活衛生課でも対応しています。困っていたら相談してみたいかかでしょうか。生活衛生課の問合せ先



TEL 5764-0694
TEL 5764-0711
FAX 5764-0711

編集後記

▼木々の緑は人の心を癒してくれます。緑豊かな街づくりは一朝一夕では成りません。自然に感謝を込め、今回一面に大田区のシンボルでもあります「くすの木」をとりあげてみました。

- ▼二、三面には、「大田文化の森」運営協議会の役員の方たちに原稿を依頼して、希望・抱負など綴って頂きました。オーブンが待ちどおしいものです。
- ▼立石康子編集委員が退任されました。ご活躍頂きました事を感謝いたします。
- ▼平成十三年年度の編集委員紹介

発行 わがまち大田新井宿地区推進委員会
編集 「わがまち新井宿」編集委員会
監修 新井宿自治会連合会
事務局 大田区新井宿特別出張所
大田区中央四一三一四
三七七六一五三九一

わがまち Araijuku 新井宿

自治会 東三丁目自治会
自治会 三丁目自治会
自治会 四丁目自治会
自治会 中央四丁目自治会
自治会 新井宿五丁目自治会
自治会 新井宿六丁目自治会
自治会 新井宿七丁目自治会
..... 共同編集

山王のくすの木

もしも木に足があったら

もしもそんなことがあったら、それこそ木は、人間の生活に大きな脅威となるでしょう。木は土の中に深く根をはり、じっと動かずに、数百年の時を超えて生き続けているのです。いわば人間の先輩かもしれません。



山王四丁目、木原山の丘にあるくすの木を守るために、住民が活動している話を知っていますか。

平成十二年一月、日本興業銀行の社員寮の敷地が、リストラの一環で売却され、建物をとり壊して、マンションを建設する計画が発表されました。その裏庭には、樹齢数百年といわれる大きなくすの木、椎、松、桜、などが繁り、緑豊かな一面なのですが、マンションの設計書面によると、そのほとんどが伐採

されてしまうことが判明しました。この緑の破壊に対して危機感をもった住民は、家々の前に緑の旗をたてて、伐採反対の意志を表わしたのです。

さらに、くすの木の根元には、奈良時代のものと思われる埋蔵遺跡もあって歴史と緑を残すために、施工業者との交渉を開始して、一本でも多くの緑を残してほしいと、設計の変更を求めました。

住民と業者の間で協議が重ねられた結果、マンション建設の



前提で、くすの木を現在の位置から北側に移植して残す。またほかの樹木については、住民との話し合いの中で決めていくという方針を進めることになりました。

平成十二年八月に、くすの木は根回しと、枝払いをすませて、現在はゴミを巻いた状態で、切られた枝に新しい葉をつけています。くすの木の生命が、決してダメージを受けないようにと願うばかりです。

いつの世にも一方の利は、他方の害。相容れない目的の追求が問題を生じてきましたが、その結果、失うものが何なのか、よく再考してほしいものです。

木を守る国際シンポジウムの中に、街の美しい木を何本か決めて、日常生活の中で、その木との関わりを楽しんで、人生を豊かなものにするという提案がありました。私達の身近にある木が、安心して大地に根をはることのできる環境、それが人間にとっても欠くことのできないものという認識は、間違っていないのでしょうか。

——— にぎわいの文化の森に ———

会長 野村 銀市

わがまち新井宿に、ことし11月3日の文化の日、「おおた文化の森」がオープンします。

大田区が元区役所あと地に建設した文化施設です。池上通りに面して、ひろばがあり、251席の文化の森ホールと、その奥に五階建の集会室棟が建ちます。集会室棟には、音楽スタジオ、スポーツスタジオ、情報館図書コーナー、マルチメディアコーナー、和室、美術室、工芸室、調理室、集会室、それにパーティやダンスなど幅広く使える多目的室があります。

この文化の森は、区民の文化活動を支援し、活動への参加を促すために、区民の参画で運営することになり、公募の委員8人を含む15人の区民からなる運営協議会が開館記念事業の企画などについて、いま、夜おそくまで熱心に話し合い、準備を進めています。ぜひ区民の皆さん、新井宿の皆さんの声をお聞かせ頂き、積極的に参加されますよう、お待ちしております。



運営協議会のイメージキャラクター「森のはっぴ〜」

——— おおた文化の森によせて ———

副会長 鈴木 康紀

馬込九十九谷 起伏の多い馬込の地形を見た武将、『谷が百以上有れば城を築く』と言う。言われた地区の人達、城を築かれては人手や資材もかりだされる。出来上がれば戦場の恐れもでる、まよそれではと『谷は九十九で御座います』と答えた。後に場所を変えて江戸城が構築された。馬込に城が出来ていたら、今の文化とまた一味違った地域文化が育まれて居たでしょうね。

梅雨どき、娘時代の祖母が夕闇の濃くなった臼田坂上から新井宿を見下ろすと、狐の嫁入りの火が見えたと言う。私の子供の頃見た狐火は、夜間、空襲で米軍機から落とされた焼夷弾の火だった。空襲の最中に祖母の話の思い出。今では狐火の面影はない。文化とは、人が生活の中から生み形成する。また必要に応じて変化していく。でも戦争によって無理に変えられた文化は御免こうむりたい。

大田文化の森 運営協議会の方々に聞きました

——— 「文化の森」に想うこと ———

副会長 染谷 昇

11月3日のオープン目指して今私達は、打ち合わせを頻繁におこなっています。私が夢見ていることはこの「大田文化の森」が、区の文化活動の有力な拠点になることです。文化とは日常生活の中にあると考えています。いわゆる芸術=文化ではないのです。そして「文化=日常生活」に必要な場所が「大田文化の森」だと思っています。昔の道ばたの夕涼みの縁台のように、気軽に入っていける場所になったらと夢をみている。

私は10年前に南六郷に越してきたのですが、委員に選ばれてから大田区のことを少し知るようになりました。

そして「大田区って結構文化的なところだな!!」が今実感していることです。この文化の森の活動を通して、私と自分の住んでいるところとの意識が変化してきています。大田区が人ごとではなくなったのです。今初めて自分の住んでいる所との関係ができたようです。人それぞれの生き方の中で「大田文化の森」を利用しませんか？

——— メディアとしての副会長 ———

副会長 加藤 光

今でも、私が「文化の森」の運営協議委員として、さらには副会長として選出されたのは謎ですが、単に二十代だからという理由だけではなさそうです。

私は現在大学院でメディアに関する研究を行なっています。「メディア」と聞くと、ITを連想しがちですが、元々は交通や物流、モノや情報の流れを通す媒介(=メディア)を対象とした研究に端を発しています。ですから、文化の森を媒介として、人の流れや催物情報の流れを、いかにして作っていくかという点が、私自身の研究課題でもあり、今後みなさんと一緒に考えていかななくてはならない課題だと考えています。

私の役職としては、主に事務局周りの基盤作りを担当していますが、与えられた責務だけではなく、自分自身が媒体となって、広く「文化の森」のことを、新井宿のことを知ってもらうことが、大切な役割だと考えています。

大田文化の森は、大田区ではじめて、区民自らが運営する組織(運営協議会)で、文化活動の企画・実施を開始しました。運営協議会は、区報で募集した公募委員(8名)と、区長の指名する学識経験者・地域代表者(7名)の計15人で構成されています。

今回は、会長、副会長の方々にオープンにむけそれぞれの抱負や思いを書いていただきました。

かつて、大田区の行政の中心であった新井宿。その新井宿で、文化の森というメディアが再び新たな風をおこし、町の活性化に貢献することを期待します。



▲熱のこもった討論が行われています

右から原稿をお寄せいただいた鈴木さん、野村さん、染谷さん、加藤さん

運営協議会Q & A

Q 「大田文化の森」について意見や要望がある場合、どこに話せばいいのでしょうか？

A FAX(03-3772-0770)でご意見やご要望をお寄せください。「大田文化の森」オープン後は、運営協議会の事務局ができます。お気軽にお立ち寄りください。

Q 11月3日にオープニングセレモニーがあるそうですが、具体的には何をやるのですか？

A 午前中は、区の主催でオープニングセレモニーを実施します。

広場では「テープカット」など地域の皆さんの参加もいただける催しものを模索中です。なお、夕方からは、運営協議会で入場無料の「すがはらやすのり」コンサートを予定しています。

翌4日は、「親子ウォークラリー」を予定しています。